



I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査の対象学年及び調査を実施した学校・児童生徒数

	対象学年	実施学校数(校)	児童生徒数(人)
小学校	第6学年	17	862
中学校	第3学年	8	894
合計		25	1,756

3 調査の内容

(1)教科に関する調査 (国語、算数・数学)	出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。 ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等 調査問題では、上記①と②を一体的に問う。
(2)質問紙調査	・児童生徒に対する質問紙調査～学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等 ・学校に対する質問紙調査～指導方法に関する取組、教育条件の整備の状況等

4 調査方式

悉皆調査(対象は小学校6年生、中学校3年生)

5 調査期日

令和3年5月27日(木)

6 調査結果の解釈等に関する留意事項

本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえる必要がある。

II 結果の概要

1 教科に関する結果の概要

- 小学校6年生は、国語・算数ともに全道・全国平均を上回っています。
- 中学校3年生は、国語が全道・全国平均よりやや低く、数学が全道・全国平均を上回っています。

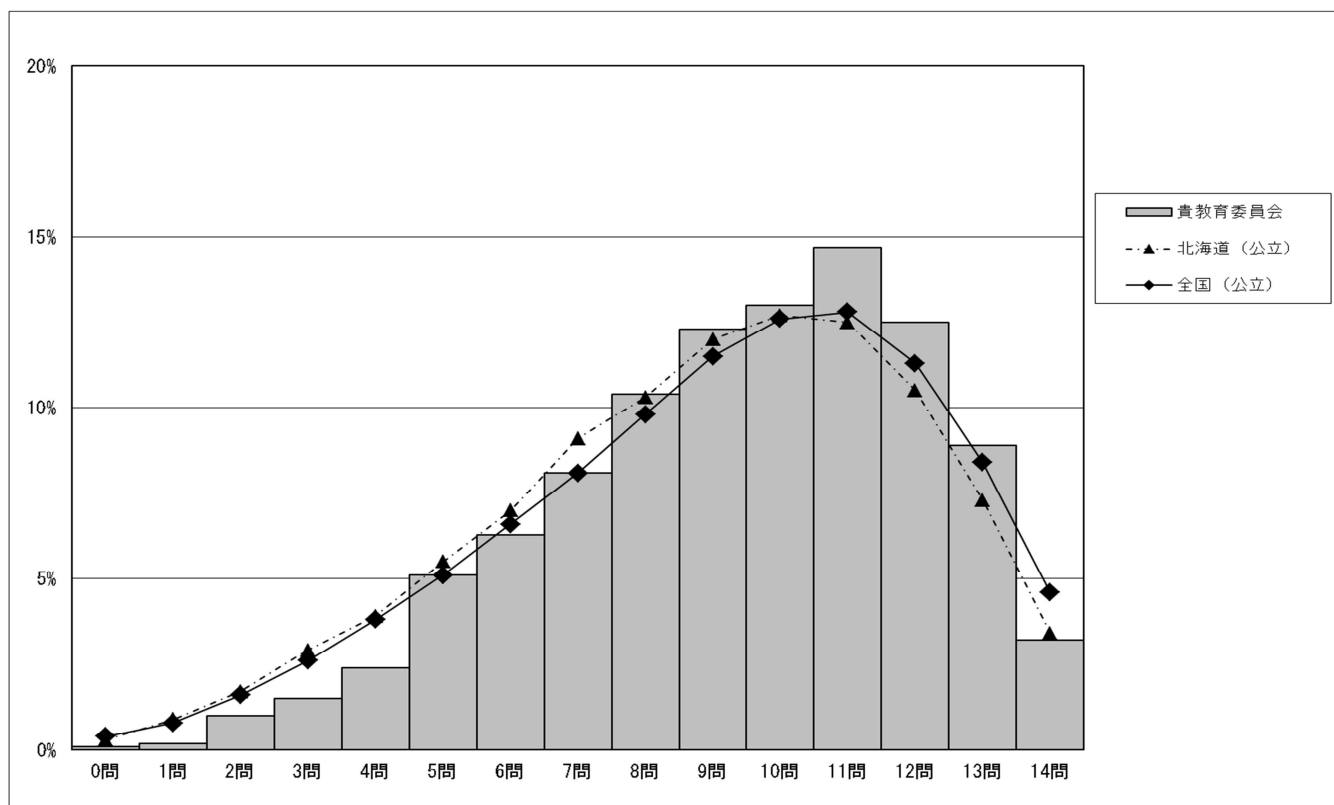
2 質問紙調査に関する結果の概要

- 「授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う」「学習規律を維持した」割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を大きく上回り(中学校3年生は両質問とも100%)、大変落ち着いた状態にあると言えます。
- 「パソコンや電子黒板等を活用して授業をほぼ毎日行った」割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに100%で、全国平均を上回り、ICT(情報通信技術)を活用した授業が積極的に行われています。

Ⅲ 各教科の結果

1 小学校 「国語」

<正答数分布グラフ>



(横軸：正答数、縦軸：割合) 棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

	平均正答数	平均正答率 (%)
江別市教育委員会	9.3 / 14	67
北海道 (公立)	8.9 / 14	63
全国 (公立)	9.1 / 14	64.7

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			貴教育委員会	北海道 (公立)	全国 (公立)
全体			67	63	64.7
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	69.9	67.1	68.3
		(2) 情報の扱い方に関する事項			
		(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	79.2	75.4
B 書くこと		2	66.0	60.4	60.7
C 読むこと		3	48.5	45.2	47.2
評価の観点	知識・技能	6	69.9	67.1	68.3
	思考・判断・表現	8	64.4	60.3	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	8	73.4	69.8	71.7
	短答式	3	73.9	70.6	70.6
	記述式	3	42.0	38.3	40.2

<結果>

- 平均正答率は67%で、北海道を4.0ポイント、全国を2.3ポイント上回っています。
- 学習指導要領の内容別平均正答率は、すべて全国平均を上回っています。中でも「書くこと」が5.3ポイント全国平均を上回りました。

<正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

■ 「目的や意図に応じ、資料を使って話す」

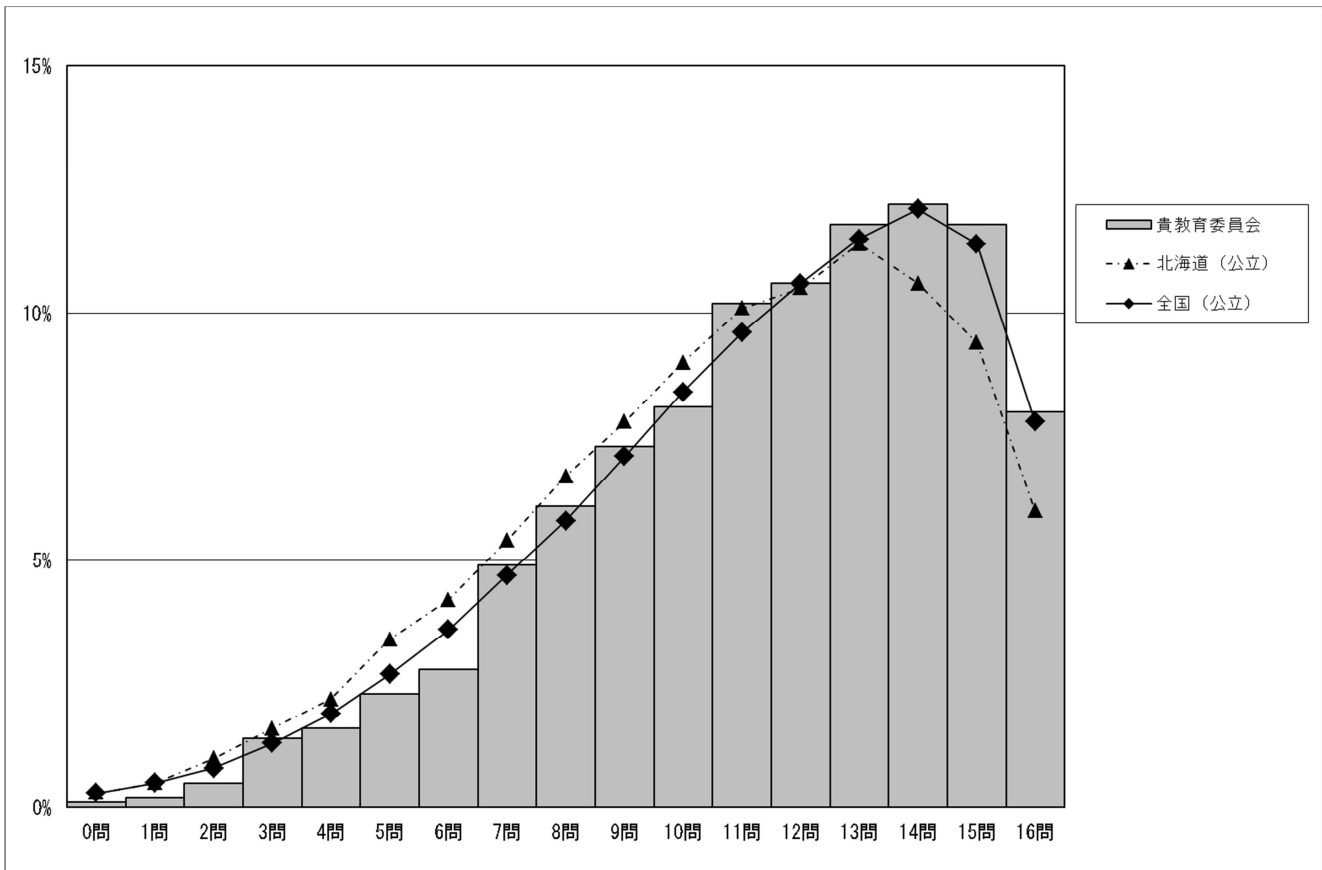
資料の意味を理解することが大切です。そのうえで、資料を使って何を伝えたいのか、目的や意図を捉えることが必要です。教材として図表やグラフ等を使った学習では、目的や効果を考えて表現できるように指導することが大切です。

■ 「文中における主語と述語との関係をとらえる」

主語と述語が複数ある文において、主語と述語との関係を捉えることが大切です。基本的な文から複雑な文へ徐々に移行し、文の構成を理解できるように指導することが大切です。

2 小学校 「算数」

〈正答数分布グラフ〉



(横軸：正答数、縦軸：割合) 棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

	平均正答数	平均正答率 (%)
江別市教育委員会	11.4 / 16	71
北海道 (公立)	10.8 / 16	67
全国 (公立)	11.2 / 16	70.2

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			貴教育委員会	北海道 (公立)	全国 (公立)
全体			71	67	70.2
学習指導要領の領域	A 数と計算	4	63.6	59.4	63.1
	B 図形	3	58.9	54.0	57.9
	C 測定	3	75.7	72.4	74.8
	C 変化と関係	3	74.9	72.5	75.9
	D データの活用	5	78.9	75.0	76.0
評価の観点	知識・技能	9	74.9	71.3	74.1
	思考・判断・表現	7	66.4	62.5	65.1
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	78.1	74.6	76.0
	短答式	6	75.4	72.3	75.8
	記述式	4	54.6	49.5	53.0

〈結果〉

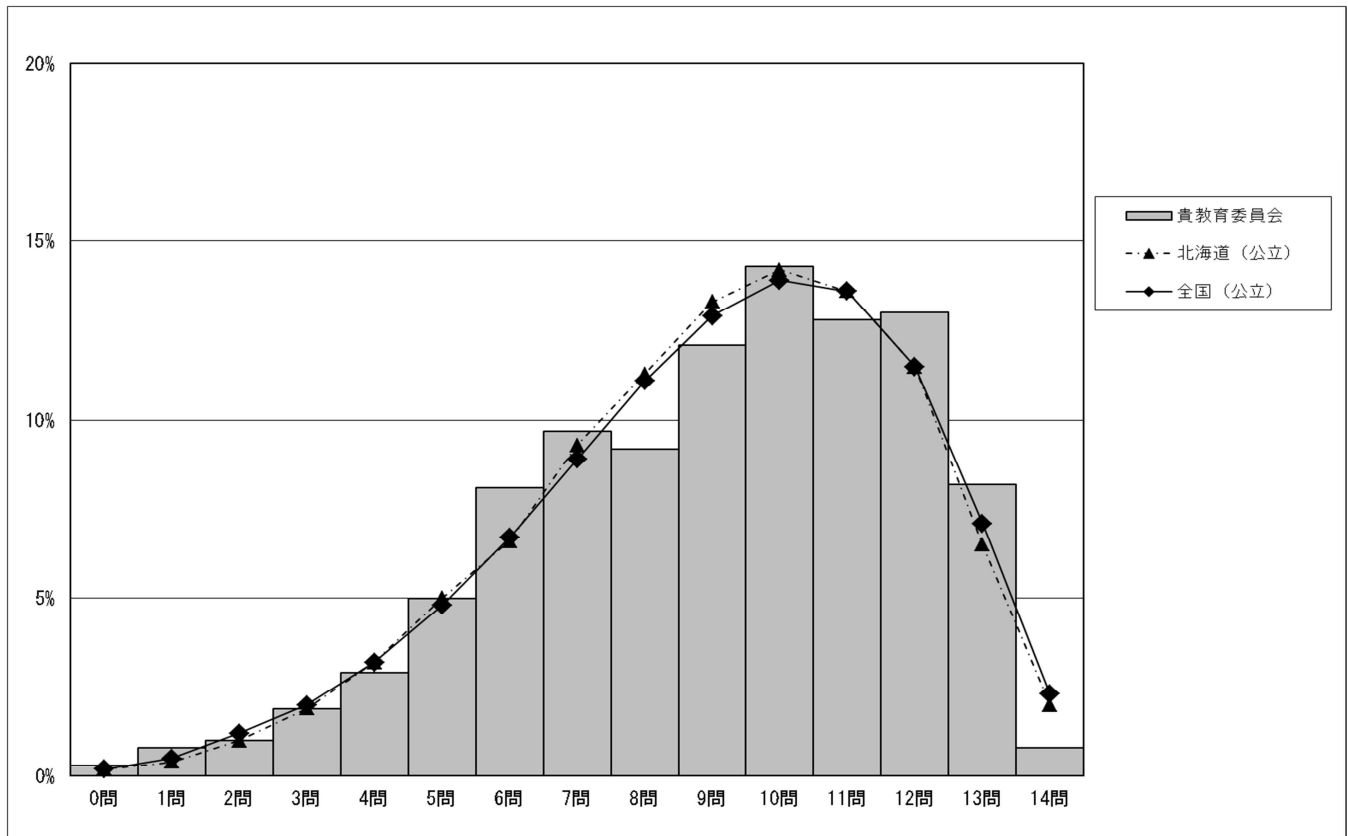
- 平均正答率は71%で、北海道を4.0ポイント上回り、全国を0.8ポイント上回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は、5領域中4領域で全国平均を上回りましたが、「変化と関係」が1.0ポイント全国を下回りました。

〈正答率の低い設問及び学習指導の改善点〉

- 「速さを求める除法の式と商の意味を理解している」「速さと道のりを基に、時間を求める式に表わすことができる」
速さ・時間・道のりの関係を再度確認する必要があります。異種の2つの量の割合として捉えられる数量に関わる数学的活動をとおして、速さなどの単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解し、それを求めることができるようにすることが大切です。
- 「三角形の面積の求め方について理解している」
三角形の底辺や高さの関係の理解を確実にしたり、求積のためにどの部分の長さを測る必要があるのかを考えたりすることで、基本図形の面積を求める公式の理解を深め、活用できるようにすることが大切です。

3 中学校 「国語」

<正答数分布グラフ>



(横軸：正答数、縦軸：割合) 棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

	平均正答数	平均正答率 (%)
江別市教育委員会	9.0 / 14	64
北海道 (公立)	9.0 / 14	65
全国 (公立)	9.0 / 14	64.6

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			貴教育委員会	北海道 (公立)	全国 (公立)
全体		14	64	65	64.6
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	78.7	79.7	79.8
	書くこと	3	55.2	56.9	57.1
	読むこと	4	47.9	48.2	48.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	76.7	75.2	75.1
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	4	54.4	55.3	56.0
	話す・聞く能力	3	78.7	79.7	79.8
	書く能力	3	55.2	56.9	57.1
	読む能力	4	47.9	48.2	48.5
	言語についての知識・理解・技能	4	76.7	75.2	75.1
問題形式	選択式	6	62.9	63.9	63.9
	短答式	4	76.2	74.7	74.4
	記述式	4	54.4	55.3	56.0

<結果>

- 平均正答率は64%で、北海道を1.0ポイント、全国を0.6ポイント下回っています。
- 学習指導要領の領域別平均正答率は、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が1.6ポイント全国平均を上回っていますが、他の3つの領域は全国平均を下回りました。

<正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

■ 「話し合いの話題や方向を捉え、話す内容を考える」

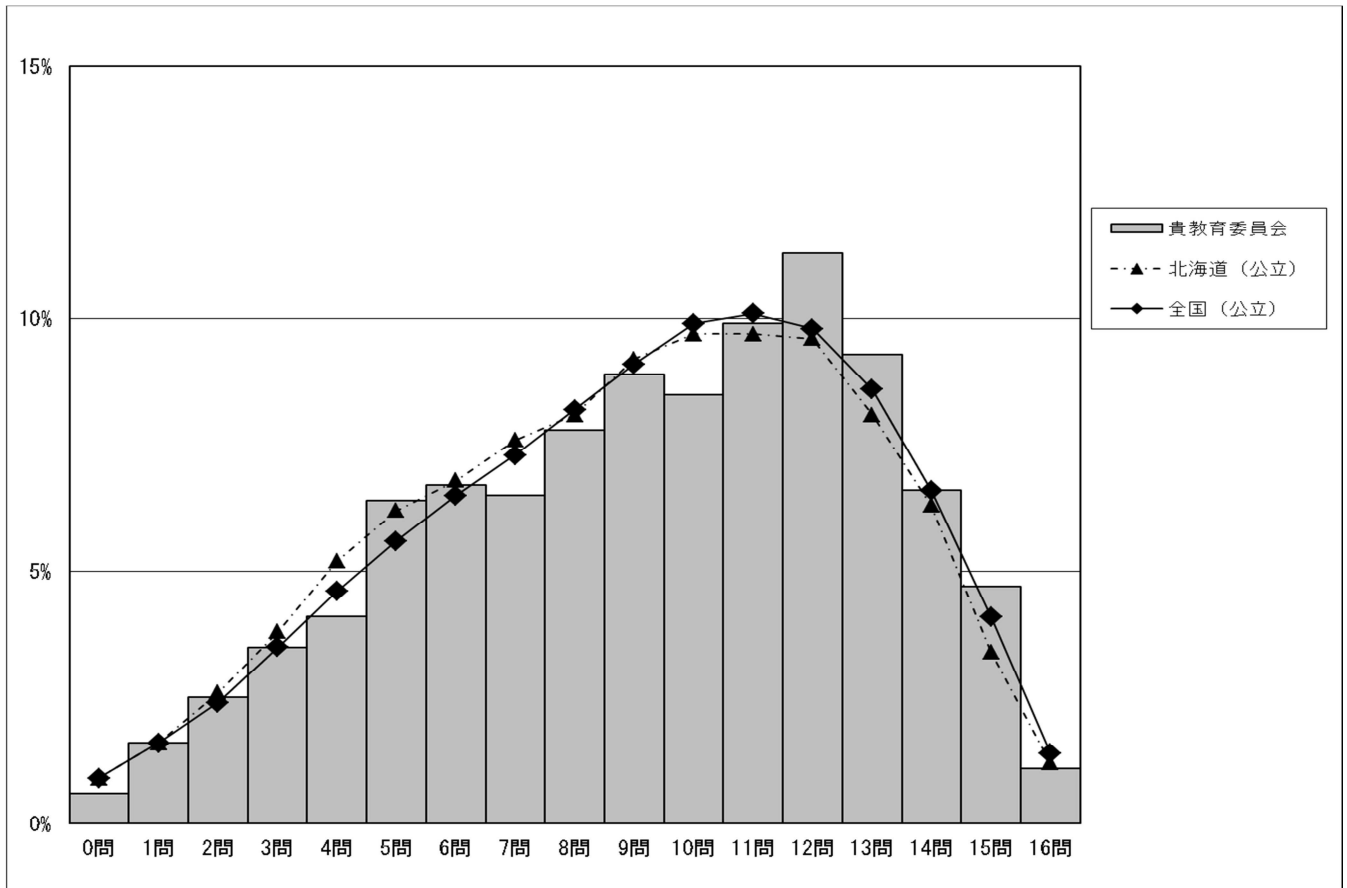
話し合いの話題や方向を捉え、司会の役割について考えることに課題があります。話し合いの話題や要点、方向を捉えて、発言の内容について考えさせることが大切です。

■ 「書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く」「書いた文章を読み合い、文章の構成の工夫を考える」

文章を推敲する際には、読み手の立場に立って文章を整えることが大切です。語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して文章を読み返すことが重要です。また、書いた文章を互いに読み合い、自分の表現に役立てるとともに、自分の考えを広めたり、深めたりすることも大切です。

4 中学校 「数学」

＜正答数分布グラフ＞



(横軸：正答数，縦軸：割合) 棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

	平均正答数	平均正答率 (%)
江別市教育委員会	9.3 / 16	58
北海道 (公立)	8.9 / 16	56
全国 (公立)	9.1 / 16	57.2

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			貴教育委員会	北海道 (公立)	全国 (公立)
全体		16	58	56	57.2
学習指導要領の領域	数と式	5	64.6	62.5	64.9
	図形	4	52.3	51.3	51.4
	関数	3	57.1	55.6	56.4
	資料の活用	4	55.5	52.3	53.8
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	7	41.2	39.9	41.1
	数学的な技能	3	78.7	75.1	77.7
	数量や図形などについての知識・理解	6	66.9	64.9	65.6
問題形式	選択式	2	54.1	52.0	52.4
	短答式	9	71.3	69.2	70.5
	記述式	5	35.0	33.5	35.0

＜結果＞

- 平均正答率は58%で、北海道を2.0ポイント、全国を0.8ポイント上回っています。
- 学習指導要領の領域別平均正答率は、4領域中3領域で全国平均を上回りましたが、「数と式」が0.3ポイント全国平均を下回りました。

＜正答率の低い設問及び学習指導の改善点＞

■ 「整数の加法と減法ができる」

形式的な処理によって容易に結果が得られるようにするため、項の意味や計算の法則に着目して文字を用いた式の計算や処理をすることが大切です。

■ 「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる」

数に関する事象を考察する場面では、成り立ちそうな事柄を予想し、予想を確かめ、事柄が成り立つ理由について筋道を立てて考え説明すること、さらに、問題の条件を変えたりして発展的に考察することが大切です。

IV 質問紙調査の結果

1 「児童・生徒質問紙」

(1) 生活習慣

① 朝食を「毎日食べている」、「どちらかといえば毎日食べている」

	令和3年度結果(%)	元年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	94.2	-0.2	94.9	-0.7
中学校3年	91.5	-1.2	92.8	-1.3

② 「毎日同じくらいの時刻に寝ている」、「どちらかといえば同じくらいの時刻に寝ている」

	令和3年度結果(%)	元年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	82.1	0.1	81.2	-0.9
中学校3年	78.5	1.8	79.8	-1.3

③ 「平日にテレビゲーム(パソコン・スマートフォン等を含む)を2時間以上している」

	令和3年度結果(%)	平成29年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	52.6	17.2	49.4	3.2
中学校3年	59.4	17.6	57.0	2.4

朝食摂取について、小学校6年生、中学校3年生ともに元年度を下回り、全国平均も下回りました。

就寝時刻について、小学校6年生、中学校3年生ともに元年度を上回りましたが、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を下回りました。子どもの生活リズムの向上のため、学校、家庭、地域等が連携して改善に向けた取組をさらに充実する必要があります。

1日2時間以上ゲームをする割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を上回り、前回調査の4年前の結果と比べると17ポイント以上高くなっています。これは新型コロナウイルス感染症のために在宅時間が長くなっていることが影響しているとみられます。家での過ごし方について家庭と連携しながら見直していく必要があります。

(2) 学習習慣

① 家で、自分で「計画を立てて勉強している」、「どちらかといえば、している」

	令和3年度結果(%)	元年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	83.9	7.7	74.0	9.9
中学校3年	62.2	11.9	63.5	-1.3

② 平日に、学校の授業以外に1時間以上勉強する(学習塾、家庭教師、インターネットでの学習の時間も含む)

	令和3年度結果(%)	元年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	71.1	7.9	62.5	8.6
中学校3年	70.3	2.5	75.9	-5.6

自分で計画を立てて勉強している割合、平日に学校の授業以外に1時間以上勉強する割合は、小学校6年生は全国平均を上回りましたが、中学校3年生は全国平均を下回りました。しかし、令和元年度と比べると小学校6年生、中学校3年生ともに高くなっており、家庭学習が計画的に行われるようになってきました。

(3) 自己肯定感

① 自分には、よいところが「あると思う」、「どちらかといえばあると思う」

	令和3年度結果(%)	元年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	75.3	-5.3	76.9	-1.6
中学校3年	72.5	6.0	76.2	-3.7

② 将来の夢や目標を「もっている」、「どちらかといえば、もっている」

	令和3年度結果(%)	元年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	79.2	-2.5	80.3	-1.1
中学校3年	65.5	-1.0	68.6	-3.1

自己肯定感、将来の目標等について、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を下回りました。自己肯定感は、小学校6年生は元年度より低くなりましたが、中学校3年生は元年度より高くなりました。

新型コロナウイルスの影響で子どもたちの活動が制限されていることも影響していると思いますが、市内の小・中学校では、一人一人のよさや可能性を見つけて伝えたり、集団における所属感や達成感を高めたりする取組を進めています。自己肯定感や自己有用感の醸成は継続して取り組む必要があります。

(4) 主体的・対話的で深い学びの視点による学習への取り組み

① 学級で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている「そう思う」、「どちらかといえば、そう思う」

	令和3年度結果(%)	元年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	81.0	6.2	78.8	2.2
中学校3年	74.9	5.9	77.8	-2.9

② 授業で課題の解決に向けて、自ら考え、自分から「取り組んでいる」、「どちらかといえば、取り組んでいる」

	令和3年度結果(%)	元年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	81.7	2.1	78.2	3.5
中学校3年	78.4	7.5	81.0	-2.6

③ 授業で自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てを「工夫して発表している」、「どちらかといえば、工夫して発表している」

	令和3年度結果(%)	元年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	65.7	4.3	63.5	2.2
中学校3年	54.5	3.3	62.0	-7.5

話し合い活動の中で、他の意見を聞いて自分の考えを深めたり、広げたりすることができる割合、課題の解決に向けて自ら考え、取り組んでいる割合、話の組み立てを工夫して発表している割合は、小学校6年生は全国平均を上回りましたが、中学校3年生は全国平均を下回りました。新学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められています。小学校では令和2年度から全面実施されていますが、中学校は今年度から全面実施になりました。質問紙では昨年度の状況を聞いているので、中学校の割合が低くなっていると考えられます。しかし、全国平均と比べても中学校は低くなっているため、今後はさらに授業改善を推進していく必要があります。

(5) 社会に対する興味・関心

① 新聞を「ほぼ毎日読む」

	令和3年度結果(%)	元年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	6.4	-0.6	5.1	1.3
中学校3年	5.4	-0.4	3.4	2.0

② 今住んでいる地域の行事に「参加している」、「どちらかといえば、参加している」

	令和3年度結果(%)	元年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	53.6	-5.2	58.1	-4.5
中学校3年	33.1	-8.1	43.7	-10.6

③ 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」

	令和3年度結果(%)	元年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	53.3	5.3	52.4	0.9
中学校3年	38.0	7.1	43.8	-5.8

「新聞をほぼ毎日読む」については、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を上回りましたが、元年度に比べ若干下回りました。社会の出来事に関心をもたせ、必要な情報を取捨選択する能力を育成する観点から、新聞を読んだりニュース番組を見たりする習慣を身に付けさせることが大切です。

地域行事への参加については、小学校6年生、中学校3年生ともに元年度及び全国平均を下回りました。これは新型コロナウイルスによる影響がかなり出ているものと思われます。しかし、「地域や社会をよくするためにすべきことを考える」割合は小学校6年生、中学校3年生ともに元年度を大きく上回り、児童生徒の地域に対する意識の高まりがみられます。今後も地域の行事に参加することをとおして住んでいる地域に関心をもたせ、社会に開かれた教育課程の実現を図っていく必要があります。

(6) 思いやり

① 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」

	令和3年度結果(%)	元年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	91.5	1.2	84.1	7.4
中学校3年	86.3	-8.1	81.4	4.9

② 人が困っているとき進んで助けている。「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」

	令和3年度結果(%)	元年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	88.4	3.6	88.7	-0.3
中学校3年	86.5	5.2	88.5	-2.0

③ 人の役に立つ人間になりたい「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」

	令和3年度結果(%)	元年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	95.3	-0.5	95.5	-0.2
中学校3年	94.4	0.3	95.0	-0.6

「いじめは、どんな理由があってもいけないと思う」割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに元年度及び全国平均を上回りました。各学校で実施されているいじめ根絶に向けたアンケートや児童生徒主体の集会活動を継続するとともに、早期発見・早期解決のため、いじめの積極的認知を進めていく必要があります。

「人が困っているとき進んで助ける」割合は元年度より高くなっていますが、全国平均を下回りました。また、「人の役に立つ人間になりたい」割合は元年度結果及び全国平均とほぼ同様となりました。

人への思いやりや規範意識を育むため、学校の教育活動全体で道徳教育を推進していくことが大切です。

(7) 読書習慣

① 学校の授業時間以外に、「平日、1日30分以上読書をする」(教科書、漫画や雑誌を除く)

	令和3年度結果(%)	元年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	40.0	4.1	37.4	2.6
中学校3年	29.2	-0.5	28.9	0.3

平日に30分以上読書する割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を上回りました。各学校では、朝読書の実施やボランティアによる読み聞かせ、市の情報図書館司書の巡回等による図書室の整備など、読書環境の充実が図られています。児童生徒の読書習慣の定着が図られるよう、今後も継続していく必要があります。

2 「学校質問紙」

(1) 学習規律

① 「授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う」

	令和3年度結果(%)	元年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	52.9	-23.6	45.8	7.1
中学校3年	100.0	12.5	69.1	30.9

② 「学習規律の維持をよく行った」

	令和3年度結果(%)	元年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	82.4	-5.8	62.3	20.1
中学校3年	100.0	0.0	75.8	24.2

「授業中の私語が少なく、落ち着いている」割合、「学習規律の維持をよく行った」割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を上回りました。特に中学校は両質問とも100%となりました。

各学校においては、姿勢や態度、聞き方や話し方、授業開始のチャイムを守るなどの学習規律が丁寧に指導されており、江別市の小・中学校は大変落ち着いた状態にあると言えます。

(2) 家庭学習

① 前年度までに、家庭学習の課題の出し方について、教職員で共通理解を図った(教科共通)

	令和3年度結果(%)	元年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	82.4	-5.8	40.6	41.8
中学校3年	75.0	12.5	34.0	41.0

② 前年度までに、家庭学習の取組として、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えた（教科共通）

	令和3年度結果(%)	元年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	88.2	0.0	46.3	41.9
中学校3年	87.5	12.5	37.0	50.5

家庭学習の取組として、「家庭学習の課題を教職員間で共通理解を図っている」割合、「家庭での学習方法等を、具体例を挙げながら教えた」割合は、小学校、中学校ともに全国平均を大きく上回っています。特に中学校は元年度と比べて大きな進捗がみられます。

江別市の各小中学校では、学習内容を確実に定着させるために、家庭での学習方法を具体的に指導し家庭における学習の習慣化を図る取り組みが推進されています。

(3) ICTを活用した授業

① 前年度、ICT機器を活用した授業をほぼ毎日行った

	令和3年度結果(%)	元年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	100.0	0.0	53.8	46.2
中学校3年	100.0	0.0	58.3	41.7

パソコンやプロジェクター、電子黒板、実物投影機などを活用した授業の実施状況は、小学校、中学校ともに全国平均を大きく上回っています。江別市ではICTを活用した学習の推進を図るため、令和2年度から多機能型大型ディスプレイ（電子黒板）をはじめ、タブレット端末の整備、各学校のネット環境の改善等を進めてきました。

江別市の各小中学校では、児童生徒の学習意欲を高め、分かりやすい授業が行われるよう、ICTを活用した授業を積極的に推進しています。

(4) 学校運営

① 生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルの確立を「よく行った」

	令和3年度結果(%)	元年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	64.7	-17.7	31.1	33.6
中学校3年	62.5	-25.0	29.8	32.7

教育課程を編成・実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルの確立を行っている割合は、小学校、中学校ともに、全国平均を大きく上回っています。令和元年度より下がっているのは、新型コロナウイルス感染症による臨時休業や学年・学級閉鎖等により、計画の変更等を余儀なくされたことが影響しているものと考えられます。

江別市の小中学校では、「計画(Plan)－実行(Do)－評価(Check)－改善(Action)」の一連のサイクルによって学校改善及び授業改善を図る取組を継続して行っています。

(5) 全国学力・学習状況調査の活用

① 令和元年度の全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するための活用を「よく行った」

	令和3年度結果(%)	元年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	70.6	-29.4	25.5	45.1
中学校3年	100.0	12.5	20.3	79.7

全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した割合は、小学校、中学校ともに、全国平均を大きく上回っています。小学校では元年度よりも低くなっていますが、「よく行った」「行った」の選択肢を合わせると100%になっています。

江別市の小中学校では、学校が一つのチームとして学力向上の取組を継続して行っています。

(6) 小学校教育と中学校教育の連携

① 令和元年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣の小中学校と成果や課題を共有した

	令和3年度結果(%)	元年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	23.5	-17.7	12.5	11.1
中学校3年	37.5	0.0	14.9	22.6

令和元年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣の小中学校と成果や課題を共有した割合は、小学校、中学校ともに全国平均を上回っています。江別市の小中学校では、各中学校区で学力における共通課題等を小中学校間で明確にし、学力の向上に向けて、成果を検証する取組が行われています。

令和5年度より市内全小・中学校で小中一貫教育が始まります。次年度以降は各中学校区で、さらに成果や課題の共有が進んでいくと思われます。

(7) 家庭や地域との連携

① 前年度、保護者や地域の人々が学校の美化、登下校の見守り、学習、部活動支援、学校行事の運営などの活動に「よく参加している」

	令和3年度結果(%)	元年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	64.7	-17.7	54.2	10.5
中学校3年	75.0	25.0	30.0	45.0

② ①の保護者や地域の人との協働による取組は「学校の教育水準の向上に効果があった」

	令和3年度結果(%)	元年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	52.9	-29.5	45.8	7.1
中学校3年	62.5	0.0	32.6	29.9

「保護者や地域の人々が学校の美化、登下校の見守り、学習、部活動支援、学校行事の運営などの活動に参加している」割合、保護者や地域の人との協働による取組が「学校の教育水準の向上に効果があった」割合は、小学校、中学校ともに全国平均を上回っています。しかし小学校では令和元年度に比べ割合が低くなっています。小学校のPTA活動は児童と一緒にするものが多く、新型コロナウイルスが影響したものと考えられます。

江別市の小中学校では、「特色のある学校づくり」として、地域の特性を踏まえて取組実践項目を掲げ、教育関係者、地域・保護者が協力し合い、教育活動の充実を図る取組を推進しています。また、江別市の全小中学校に、地域に住んでいる退職教員など、教員免許を持つ学習サポート教員を配置し、複数の教員が指導するティーム・ティーチングや長期休業中・放課後に補足的な学習を行い、基礎学力の定着に大きな役割を果たしています。

参考引用文献

令和3年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 (国立教育政策研究所教育課程研究センター)